概要資料

東京都の新たな被害想定について
～首都直下地震等による東京の被害想定～

○　東日本大震災を踏まえ、現行の被害想定を見直し

◆　客観的なデータや科学的な裏付けに基づき、より実態に即した被害想定へと全面的に見直し（地震モデル、火災の想定手法の改良）

再検証	【首都直下地震】	東京湾北部地震 多摩直下地震	（M7.3） （M7.3）	首都直下地震防災・減災特別プロジェクトの研究成果を反映し、最新のモデルで検証
追　加	【海溝型地震】	元禄型関東地震	（M8.2）	大規模海溝型地震の検証
追　加	【活断層で発生する地震】	立川断層帯地震	（M7.4）	地下の浅い部分で発生する地震の検証

◆　フィリピン海プレート上面の深度が従来の想定より浅いという最新の知見を反映　➡　震源が浅くなるため、従来の想定より震度が大きくなる

◆　津波による被害想定を実施　➡　過去の記録等で、都内に最も大きな津波をもたらしたとされる元禄関東地震（1703年）をモデルとして検証

○　想定結果の特徴

◆　最大震度７の地域が出るとともに、震度６強の地域が広範囲に

震度６強以上の範囲は、東京湾北部地震　区部の約７割
多摩直下地震　多摩の約４割

◆　東京湾沿岸部の津波高は、満潮時で最大T.P.2．６１ｍ（品川区）
※地盤沈下を含む。　（T.P.　＝ 東京湾平均海面）

河川敷等で一部浸水のおそれがあるが、死者などの大きな被害は生じない

◆　東京湾北部地震の死者が最大で約９，７００人

区部木造住宅密集地域で、建物倒壊や焼失などによる大きな被害

◎今後の予定　　被害想定の結果を踏まえ、東京都地域防災計画を修正（９月までに素案とりまとめ）

○ 被害の概要（冬の夕方 18 時・風速8m/秒）

			【首都直下地震】				【海溝型地震】		【活断層で発生する地震】	
			東京湾北部地震　（M7．3）		多摩直下地震　（M7．3）		元禄型関東地震　（M8．2）		立川断層帯地震　（M7．4）	
人的被害		死者	約 9,700	人	約 4,700	人	約 5,900	人	約 2,600	人
	原因別	揺れ	約 5,600	人	約 3,400	人	約 3,500	人	約 1,500	人
		火災	約 4,100	人	約 1,300	人	約 2,400	人	約 1,100	人
		負傷者	約 147,600	人	約 101,100	人	約 108,300	人	約 31,700	人
		（うち重傷者）	（約 21,900）	人	（約 10,900）	人	（約 12,900）	人	（約 4,700）	人
	原因別	揺れ	約 129,900	人	約 96,500	人	約 98,500	人	約 27,800	人
		火災	約 17,700	人	約 4,600	人	約 9,800	人	約 3,900	人
物的被害		建物被害	約 304,300	棟	約 139,500	棟	約 184,600	棟	約 85,700	棟
	原因別	揺れ	約 116,200	棟	約 75,700	棟	約 76,500	棟	約 35,400	棟
		火災	約 188,100	棟	約 63,800	棟	約 108,100	棟	約 50,300	棟
避難者の発生（ピーク：1日後）			約 339万	人	約 276万	人	約 320万	人	約 101万	人

帰宅困難者	約 517万	人

震　度　分　布　図

【首都直下地震】

○東京湾北部地震(M7.3)

○多摩直下地震(M7.3)

【海溝型地震】

○元禄型関東地震(M8.2)

【活断層で発生する地震】

○立川断層帯地震(M7.4)

津　波　高　・　浸　水　想　定　図

図１　元禄型関東地震の各区における最大津波高とその場所

（津波高は満潮時の値。地盤沈下を含む。）

図２　元禄型関東地震の浸水想定図

（水門閉鎖時）

東京湾北部地震における木造全壊建物棟数の分布（揺れ）

東京湾北部地震における焼失棟数分布（冬 18 時 風速 8m/s）（火災）